

# DEALWATCH

## Offshore Bond of the Year 2019

### パナソニック

2019年度のOffshore Bond of the Yearにはパナソニックによるドル債が選ばれた。同社の受賞は10年度のStraight Bond of the Year以来、9年ぶりとなる。発行総額は本年度の国内事業会社のドル建て債として最大である25億ドル。知名度の高さと言うまでもないが、発行体にとっては27年ぶりの外債であるため、ロードショーを通じクレジット・ストーリーを投資家にしっかりと浸透させた。日系事業法人銘柄の希少性、適正なスプレッド水準といった点も投資家の高い評価につながり、幅広い層からの旺盛な需要を獲得した。

パナソニックが外債発行に踏み切ったのは資金調達基盤の多様化と拡充などを主たる目的とする。

本邦事業会社として初のグローバル債発行となった1992年7月の松下電器産業ドル債（10億ドル）以来の外債発行となり、起債にあっては改めて海外投資家に同社の展望を訴求する形となった。ただ、事業が多岐にわたっていることもあり、明確な比較対象銘柄は存在しない。このため、7月1日のマニフェスト・アナウンス後に100件以上の投資家と電話会議や面談などを通じてロードショーを実施。「ゼロベースで投資家の基盤を作る」（主幹事）必要があり、クレジットをしっかりと投資家に分析してもらったという。

主幹事は7月10日のアジア時間朝に発行額をベンチマークサイズにすることを決め、イニシャル・プライス・ソーツ（IPT）として3年債で米国債+90bpエリア、5年債で+105bpエリア、10年債で+130bpエリアを提示してブックビルディングを開始。アジアおよび欧州投資家からの幅広い需要が集まり、米国時間オープンまでにブックは3年限の合計で50億ドルを上回った。米国時間に入ってから勢いは継続し、大手アセットマネージャーなどの需要も加わり、札は合計でピーク時に110億ドル程度まで積み上がった。このため、オフィシャル・プライス・ガイダンスをそれぞれ+75bp（1本値）、+90bpエリア（±5bp）、+110bpエリア（±5bp）に設定。最終的に3年債が+75bpに、その他年限はタイトサイドの+85bp、+105bpで条件決定した。IPTからのタイト化は15bp、20bp、25bpと比較的大幅となった。

最終的には幅広い投資家からの需要が押し寄せた。販売先を地域別にみると全年限で米国が中心となった。業態別ではアセットマネージャー、銀行、公的機関や保険など。参加件数は3年債で110件以上、5年債で150件以上、10年債では180件以上となった。

多くの投資家からの反応について、主幹事は「日本の事業会社が複数本立かつベンチマークサイズで起債する例は珍しく、ポートフォリオの構成上、大変良かった」と話している。水準と需要状況から明らかなように、シングルA格以上の底力を海外市場に見せつけたという。ベンチマークサイズの発行に成功したことによって、今後国内外の資金需要やコストに応じて柔軟に調達できる選択肢を広げた。

# DEALWATCH

(片山 直幸 DealWatch / Refinitiv)

※ディールウォッチのコンテンツは Refinitiv (リフィニティブ) から直接提供するという方法でのみ配信いたしております。従いまして提供されましたお客様限りでご使用ください。コンテンツのいかなる部分も一切の権利は Refinitiv に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製、翻訳または転送を行わないようお願いいたします。

記事の内容や利用等に関するお問い合わせおよび照会は TEL:03-6441-1119 または、  
[markets.dwsales.jp@refinitiv.com](mailto:markets.dwsales.jp@refinitiv.com)  
までお問い合わせ下さい。